

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1 職務の理解	6.0			6.0	<到達目標> 介護保険サービス及び介護保険外サービスと介護職の仕事内容や働く現場について理解する。
1) 多様なサービスの理解	3.0			3.0	<講義> ①介護保険サービス（居宅、施設） ②介護保険外サービス
2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.0			3.0	<講義> ①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ②居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ③ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 <演習の実施方法> サービス提供現場等でどのような仕事を行なうかを、グループ討議によって具体的にイメージできるようにする。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	4.0	5.0		9.0	<到達目標> 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解する。
1) 人権と尊厳を支える介護	1.0	3.0		4.0	<講義> (1) 人権と尊厳の保持 (2) I C F (3) Q O L (4) ノーマライゼーション (5) 虐待防止・身体拘束禁止 (6) 個人の権利を守る制度の概要 <通信の課題> 虐待防止
2) 自立に向けた介護	1.0	2.0		3.0	<講義> (1) 自立支援 (2) 介護予防 介護予防の考え方 <演習の実施方法> 自立支援や介護予防という考え方に基づいたケアとはどういうものなのか、事例検討を行なう。 <通信の課題> 介護予防
3) 人権に関する基礎知識	2.0			2.0	<講義> ①人権に関する基本的な知識、②同和問題等
3 介護の基本	3.0	3.0		6.0	<到達目標> 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。
1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.0	1.5		2.5	<講義> (1) 介護環境の特徴の理解 (2) 介護の専門性 (3) 介護に関する職種 <通信の課題> 介護の専門性
2) 介護職の職業倫理	0.5			0.5	<講義>

				職業倫理、介護に関する職種
3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.0	1.0	2.0	<講義> (1) 介護における安全の確保 (2) 事故予防、安全対策 (3) 感染対策 <演習の実施方法> 介護の現場で起こり得るリスクに対し、自分たちができる事故予防、安全対策等についてグループ討議を行う。 <通信の課題> 事故予防、安全対策、感染対策
4) 介護職の安全	0.5	0.5	1.0	<講義> 介護職の心身の健康管理 <通信の課題> 介護職の心身の健康管理
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	5.5	3.5	9.0	<到達目標> 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
1) 介護保健制度	1.0	1.0	2.0	<講義> (1) 介護保険制度創設の背景および目的、動向 (2) 仕組みの基礎的理解 (3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 <通信の課題> 介護保険制度創設の背景、仕組みの基礎的理解 制度を支える財源
2) 医療との連携とリハビリテーション	4.0	1.0	5.0	<講義> ①医行為と介護、②訪問看護、③施設における看護と介護の役割・連携、④リハビリテーションの理念 <演習の実施方法> 簡単なロールプレイを行ない、リハビリテーションについての理解を深める。 <通信の課題> リハビリテーションの理念
3) 障害者総合支援制度およびその他制度	0.5	1.5	2.0	<講義> (1) 障害者福祉制度の理念 (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 (3) 個人の権利を守る制度の概要 <通信の課題> 障害者福祉制度の理念、障害者総合支援制度の仕組み 個人の権利を守る制度
5 介護におけるコミュニケーション技術	3.0	3.0	6.0	<到達目標> 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。
1) 介護におけるコミュニケーション	1.5	1.5	3.0	<講義> (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 (4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 <演習の実施方法> 利用者・家族との人間関係を傷つけるコミュニケーションとその理由についてグループ討議を行い、配慮の必要性を考える。 <通信の課題> コミュニケーションの技法、利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術
2) 介護におけるチームのコミュニケーション	1.5	1.5	3.0	<講義>

				(1) 記録における情報の共有化 (2) 報告 (3) コミュニケーションを促す環境 ＜通信の課題＞ 記録における情報の共有化
6 老化の理解	3.0	3.0	6.0	＜到達目標＞ 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。
1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	1.5	1.5	3.0	＜講義＞ (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ＜演習の実施方法＞ 老化に伴う心身の変化等の具体例を挙げ、その対応について事例検討を行う。 ＜通信の課題＞ 老化に伴う心身の変化の特徴、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
2) 高齢者と健康	1.5	1.5	3.0	＜講義＞ (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ＜通信の課題＞ 高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
7 認知症の理解	3.0	3.0	6.0	＜到達目標＞ 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解する。
1) 認知症を取り巻く状況	0.5		0.5	＜講義＞ 認知症ケアの理念
2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.0	1.5	2.5	＜講義＞ 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ＜通信の課題＞ 認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント
3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	1.0	1.5	2.5	＜講義＞ (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 (2) 認知症の利用者への対応 ＜演習の実施方法＞ 複数の具体的な事例を検討し、認知症の利用者の介護における対応方法を確認する。 ＜通信の課題＞ 認知症の利用者への対応
4) 家族への支援	0.5		0.5	＜講義＞ ①認知症の受容過程での援助、②介護負担の軽減(レスパイトケア)
8 障害の理解	1.5	1.5	3.0	＜到達目標＞ 障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。
1) 障害の基礎的理解	0.5		0.5	＜講義＞ (1) 障害の概念と I C F (2) 障害者福祉の基本理念
2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎知識	0.5	1.5	2.0	＜講義＞ (1) 身体障害 (2) 知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） (4) その他の心理の機能障害 ＜通信の課題＞ 身体障害、精神障害
3) 家族の心理、かわり支援の理解	0.5		0.5	＜講義＞ ①障害の理解・障害の受容支援、②介護負担の軽減

			<演習の実施方法> 複数の具体的な事例を検討し、高齢者の介護との違いと、障害の介護の留意点について理解を深める。
9 こととからだのしくみと生活支援技術	63.0 12.0 75.0		<到達目標> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
【Ⅰ 基本知識の学習】			
1) 介護の基本的な考え方	3.0 3.0		<講義> ①倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ②法的根拠に基づく介護
2) 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解	3.0 2.0 5.0		<講義> ①学習と記憶の基礎知識、②感情と意欲の基礎知識、③自己概念と生きがい、④老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、⑤こととからだの持ち方が行動に与える影響、⑥からだの状態がことに与える影響 <通信の課題> 記憶の基礎知識、感情の基礎知識、老化や障害を受け入れる適応行動
3) 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解	3.0 2.0 5.0		<講義> ①人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、②骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、④自律神経と内部器官に関する基礎知識、⑤こととからだを一体的に捉える、⑥利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <演習の実施方法> 利用者の様子の普段との違いについて事例検討を行ない、より多くの気づく視点を習得する。 <通信の課題> 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識
【Ⅱ 生活支援技術の学習】			
4) 生活と家事	3.0 1.5 4.5		<講義> 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <通信の課題> 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援
5) 快適な居住環境整備と介護	3.0 1.0 4.0		<講義> 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 <演習の実施方法> 家事援助や環境整備の方法（手法）についてグループ討議を行ない、より良いサービスに向けアイデアを出し合う。 <通信の課題> 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点
6) 整容に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	6.0 0.5 6.5		<講義> 整容に関する基礎知識 <実技> 整容の支援技術 <通信の課題> 整容に関する基礎知識
7) 移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護	6.0 0.5 6.5		<講義> 移動・移乗に関する基礎知識、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害することとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援

				<実技> さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 <通信の課題> 移動・移乗に関する基礎知識
8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	0.5	6.5	<講義> 食事に関する基礎知識、食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 <実技> 食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法 <通信の課題> 食事に関する基礎知識
9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	0.5	6.5	<講義> 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <実技> さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 <通信の課題> 入浴、清潔保持に関連した基礎知識
10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	0.5	6.5	<講義> 排泄に関する基礎知識、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <実技> さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 <通信の課題> 排泄に関する基礎知識
11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3.0	1.5	4.5	<講義> 睡眠に関する基礎知識、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <実技> さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 <通信の課題> 睡眠に関する基礎知識
				<6)～11)の演習の実施方法> 実技により個々の技術に関連したところとからだのしくみ等の根拠の学習および技術について体感的な演習を行う。
12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3.0	1.5	4.5	<講義> 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死 <演習の実施方法> 「尊厳のある死」とはどういうものかグループ討議を行ない、そのことについて理解を深める。 <通信の課題> 終末期に関する基礎知識
【Ⅲ 生活支援技術演習】				
14) 介護過程の基礎的理解	6.0		6.0	<講義> ①介護過程の目的・意義・展開、②介護過程とチームアプロー

15) 総合生活支援技術演習 (事例による展開)	6.0	6.0	<講義> 利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 <実技> 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの技術 <演習の実施方法> ①事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1. 5時間程度で上のサイクルを実施する) ②事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から事例を選択して実施	
10 振り返り	4.0	4.0	<到達目標> 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。	
1) 振り返り	3.0	3.0	<講義> ①研修を通して学んだこと ②今後継続して学ぶべきこと ③根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)	
2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.0	1.0	<講義> ①継続的に学ぶべきこと ②研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT, OJ) <演習の実施方法> 研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきことをグループ討論し、研修修了後の課題を認識できるようにする。	
時間数計	96.0	34.0	0.0	130.0

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとする。

※講義と演習は一体的に実施すること。なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。